



やまと 得々 二情報



第 15 号

1997年 10月 1日

大和木材株式会社

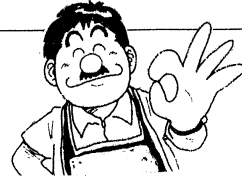
〒891-11

日置郡郡山町郡山1466番地

TEL ; 099-298-2288(代)

FAX ; 099-298-2290

…住まいと健康…



日本で住まいと健康について最初に認識するきっかけになったのは、大正末から昭和初頭にかけて猛威をふるった結核のためでした。その対策として建築的側面からは太陽を取り入れて室内を消毒し、通風をよくして湿気のない衛生的な住宅を造ろうというのが目標となりました。(吉田兼好の徒然草には「住宅は夏を旨とすべし」とあります)

その後、高度経済成長の時代には、設備の充実によって豊かさを得ようとする動きになり、実際にハウスメーカーの利益戦略として設備依存型の住宅が生まれました。これは現在でも主流の考え方ではありますが、昨今のVOC問題など利便性や効率性の追求のみの結果であり、今後、総合的な住宅の機能性の追求が必要でしょう。

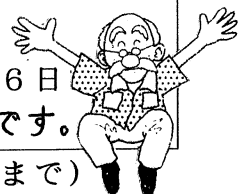
冬の寒い時期は、床の冷えが原因の病気や夏の暑い時期は暑さや冷房が原因の病気などが多数発生しています。日本人は家では素足でいますが、足の裏は第二の心臓と言われる程、たくさんの神経が集まっており、いろいろな刺激から心臓や脳を守ろうとしています。従って足が急に冷えることにより脳卒中や風邪になり易くなります。桂離宮では高床式の床が二重になり、その間に18cm程度の厚さの靱殻が入っていたそうです。昔の人の知恵で370年前、既に床の断熱工法を開発していたということです。

また、幼児期に冷房のある部屋で育った子供は、発汗による体温調節機能が未発育のため、小学生になり少しの間外で日射を浴びていると、倒れてしまうようになることもあるそうです。また、西陽が当たる部屋は、温度がどんどん上がり、壁全体が熱をもつと、冷房機を使って室温は下がってもそこにいる人は壁・天井からの輻射熱を受けて暑く感じ、冷房を強くする。頭と足の温度差は20度にもなることがあり、自律神経失調症になることもあるといえます。

このように設備依存型による安易に出来る快適環境は見直すべき時期に来ているのではないのでしょうか。
(インターネット情報を要約しました)

[情報] 北薩地区で、燻煙乾燥機が導入されました。これは丸太のまま煙で木材を乾燥させようというのですが、乾燥よりは調質に効果があるといわれており、全国的にも数社のメーカーが普及に努めています。今後この乾燥材に注目していきたいものです。

《定休日》10月は、5日、10日、11日、12日、18日、19日、26日
ご協力よろしくお願ひします。



(お問い合わせは、お客様サービス係の森園まで)